



《東山教会便り》(2025年2月号)

『ロゴス・言(ことば)』

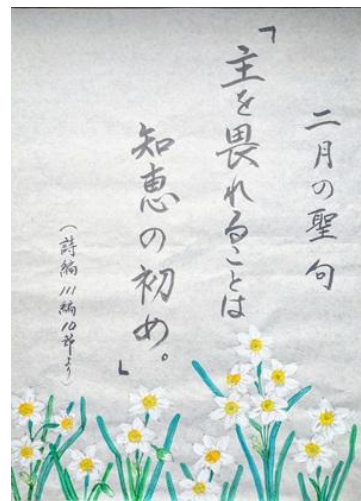
私たちは、どんな言葉を口にしているでしょうか。

今年に入り、主日礼拝では、ヨハネによる福音書を取り上げています。祈禱会では、マタイ福音書を取り上げ、シンクロしているような並行箇所があったりして、非常に(牧師個人的に)楽しい御言葉の学びを行っています。

ヨハネ福音書から、改めて御言葉に聞き、学ぶこと

神学校時代(東京神学大学)には、新約聖書神学を専攻したものの、ルカの使徒言行録を取り上げて学んだため、ヨハネ福音書は、あくまで授業で学ぶ範囲に留まっていました。当時の学長 松永希久夫先生は、ヨハネ福音書の専門家で独特の口調で解き明かすヨハネ文書(福音書、手紙)は、記憶に留まっているのですが、改めて、松永先生の「ひとり子なるイエス」(ヨハネ福音書新解1)(ヨルダン社)を紐解いてみようかと思っているところです。

ヨハネ福音書は、大変独特(ユニーク)で、他の3つの福音書(共観福音書)とは印象が異なりますね。特に1章の書き出し「初めに言(ことば)があった。」(1節)には、創世記の創造物語を、ヨハネの視点で描き出しています。非常に荘厳で、格調が高い印象があります。言葉には人格があり、私たちが普段口にする言葉や、世の中を飛び交う言葉には、時に人を建て上げるような言葉もあれば、人を攻撃し、否定するような言葉もあります。言(ロゴス)には、主イエスの生命が宿ります。イエス様から、人を生かす言葉や、傷つき悲しんでいる者を慰め、気落ちする者を励ます言葉を学び、主にならっていきましょう。ともに主の弟子となれるように、心がけてまいりたいと願います。今月も御言葉に希望を置いて歩みましょう!



書: Y.H. さん
教会の庭に咲く水仙をイメージして描かれたそうです。香り佳し!

～教会員の証し～ Y.H.さん

♪ くるあさごとに あさひとともに
かみのめぐみを ころろにうけて
あいのみむねを あらたにさとり ♪



これは教団讃美歌23番の1節です。分類は礼拝・朝になっています。この23番は 私にとって忘れられない讃美歌の一つです。

まだクリスチャンになっていない時、学校の礼拝の中で時々歌い、歌詞にひかれてとても好きになりました。バプテスマを受けようと決心をし、父には知ってほしいと思い、当時寮生活をしていましたので、手紙にしました。

手紙の最後にこの23番の歌詞 1節から5節まで全部書いて、これは私の好きな讃美歌です。と書きました。神さまのことや私のことも少しでも解ってほしいという気持ちでした。

父からの返信はありませんでしたが、後日弟に会った時、弟から何か相談事がある時はお姉ちゃんに相談しなさいと親父から言われたよ、と話してくれました。

父は私のことを信頼してくれていたのだとうれしい気持ちになったことを思い出します。

《今月の予定》



◎2月16日 礼拝後、青年たちの壮行会(S.K.さん、K.J.さん、L.M.さん)

それぞれの新しい道へと進めます。就職、結婚、引っ越し、帰国など。お祈り下さい。

日本バプテスト連盟 東山キリスト教会 〒464-0822 名古屋市千種区穂波町2-50

TEL・F 052(762)8363・Email: nishiki@ah.wakwak.com・HP: <http://higashiyama.itigo.jp/>

text by
h.c.c.